



# 社団法人 徳島新聞社

## 男女問わず子育てしやすい環境に



総務局総務部長 内海 祐次郎

平成23年6月2日付の徳島新聞によると、厚生労働省の人口動態統計（概数）で徳島県の平成22年の女性1人が生涯に産む子どもの推定人数を示す合計特殊出生率は1.40と10年ぶりに1.40台になりました。全国平均の1.39を6年ぶりに上回り、全国順位も33位から23位に上昇。このことについて、県こども未来課は「乳幼児医療費助成や子育て総合支援センターの開設など、少子化対策の効果が出てきている」と、話しています。

徳島新聞社も仕事と子育ての調和を図り働きやすい雇用環境の整備を行い、男女を問わず従業員がその能力を十分に発揮できるよう努力しています。また、少子化対策につながるよう平成23年から平成27年までの一般事業主行動計画を策定し、県に認証していただきました。今回は目標を五つ立てました。

1. 平成24年3月までに、妊娠中や産後・育児休暇後に復職した女性従業員が相談、情報交換できる仕組みをつくります。弊社は数年前から女性従業員の採用が増えており、育児休暇を取得した先輩が、未婚の彼女たちにアドバイスをすることは、仕事や生活の面で不安解消につながると思います。そのために出産、育児を経験した女性従業員から聞き取りやアンケート調査を行い、具体的な対応策をつくり就業規則に記載します。

2. 育児休業中の女性職員で、希望する職員に職場の現状報告や職場復帰のためのセミナーなどへの参加を実施する。そのために出産、育児の有無にかかわらず全女性従業員から聞き取りやアンケート調査を行い、ニーズを把握。総務部で実施計画を作成し、女性従業員に社内ポータルサイトや掲示板で周知を徹底する。

3. ワークライフバランスを実現するため、昨年度の半日休暇取得の実態を調査。管理職を対象に制度に関する研修を行うとともに、安全衛生委員会でも取り上げ利用率向上について検討する。

4. 1年間に5連日以上以上の休暇を取得してもらう「ゴーゴー5連休」の取得実態を調べ、長時間労働解消のため、長期休暇のあり方や期間などについて制度化し就業規則に記載します。

5. 日勤職場に導入しているノー残業デー（週1回）の実態調査と分析を行うとともに、管理職の意識徹底を図ったうえで週1回の完全実施を目指す。将来的には週2回以上実施し、全従業員がより充実した生活ができるようにします。

これらの育児がしやすい環境を確実に整備していくことで、女性はもちろん男性従業員も子育てに参加しやすくなり、少子化対策につながっていくと確信しています。一度にすべての施策を実行するのは困難ですが、計画を立て少しずつでも促進していきます。

### 親子ともに充実した毎日

地方部 中野 由梨

昨年12月に第1子となる長女を出産し、現在育児休業を取得しています。1年間も職場を離れることに不安や遠慮はありましたが、周囲の方々の理解やサポートのおかげで一番手間のかかる乳児期にゆとりを持って娘と向き合うことができ、親子ともにとっても充実した毎日を送らせていただい

ています。

私が育児休暇を取得して良かったと思う点は、母乳育児ができたことです。まだ目もよく見えていない我が子が必死にお乳を探して吸いつく姿は本当に愛おしく、肌と肌の触れ合いをとおして親子の絆が強まったと感じています。母乳には免疫物質が豊富に含まれていると聞きますが、8カ月になった娘はそのおかげか、今まで病気どころか発熱さえしたことがなく、元気にすくすくと成長してくれています。

また、離乳食づくりにゆっくり時間をかけて挑戦できたこともいい経験になりました。なかなか予定通りには進まず、娘の反応を見ながら試行錯誤を繰り返した日々は、育児書はあくまで参考資料であり、目の前の子どもに寄り添っていくことが何より大切なのだという当たり前のことを再認識させてくれました。

子育てというのは想像以上にハードで、未熟な私がこれまでどおりの仕事をしながら今と同じように娘に笑顔で向き合えていただろうかと考えると、正直あまり自信がありません。今こうして親子そろって笑顔で毎日を過ごし、母乳育児や手づくりの離乳食など希望どおりの子育てができてるのは、私が育児休業を取得することを快く受け入れてくれた職場の方々やいつも温かくサポートしてくれる家族のおかげなのだと感謝しています。

仕事と子育ての両立は決して簡単なことではないと思います。復帰後も何かと助けていただくことが多いかもしれませんが、周囲の方々への感謝の気持ちを忘れず、公私ともに充実させていけるよう努力していきたいと思っています



す。そして、これから就職する女性や後輩の女性社員たちが仕事と子育ての両立に夢を持てるような存在になれるよう、自分自身を磨いていきたいです。

## (第二回)一般事業主行動計画の概要

提出日 平成23年4月1日

従業員がその能力を発揮し、仕事と生活(子育て、介護を含む)の調和を図り働きやすい雇用環境の整備を行うとともに、次世代育成に向け、社内外で貢献できる企業を指す。

(1) 計画期間

2011年4月1日～2015年3月31日

(2) 内容

●目標1 2011年度内に、ワークライフバランスを実現するため、半日休暇制度の利用率向上に向け、制度の周知および取得しやすい環境を整える。

〈対策〉

11年度 半日休暇取得の実態を調査し、安全衛生委員会での利用率向上について検討

12年度 年休での半日休暇取得の利用率向上を指す

●目標2 2013年度3月までに、リフレッシュ休暇の完全取得の実現を図るため制度化する。

〈対策〉

11年度 「ゴーゴー5連休」の取得実態を調べ、安全衛生委員会での長期休暇のあり方を意見聴取

12年度 従業員にアンケート調査を行い制度化、就業規則に記載する

●目標3 2012年3月までに、妊娠中や産後・育児休暇後に復職した女性従業員が相談、情報交換できる仕組みを作る。

〈対策〉

11年度 出産、育児を経験した女性従業員から聞き取りやアンケート調査を行い、ニーズを把握。総務部で具体的な計画を作成

12年度 外部委託などが必要な場合は予算を計上、就業規則に記載する

●目標4 2012年度から、育児休業中の女性従業員で、希望する従業員に職場の現状報告や、職場復帰のためのセミナーなどへの参加を実施。

〈対策〉

11年度 女性従業員への情報提供の具体的な方法や可能な範囲でのセミナー開催などの情報を収集、社内ポータルサイトや掲示板で周知する

●目標5 2013年度内に、日勤職場に導入しているノー残業デー(週1回)の完全実施、回数増加を指す

〈対策〉

12年度 管理職の意識徹底を図ったうえで週1回の完全実施を指す

13年度 具体的な実施案をまとめ、管理職と従業員に通達するとともに、完全実施や回数増の実施を図る

## 事業所概要

### 社団法人 徳島新聞社

所在地 徳島市中徳島町5番地2

事業内容 日刊新聞発行業

設立 1944年(昭和19年)6月

出資金 10万円

従業員数 314人(男性289人、女性25人)

正規 301人(男性281人、女性20人)

非正規 13人(男性8人、女性5人)

TEL 088-655-7836

FAX 088-623-5322

URL <http://www.topics.or.jp>



# 西精工 株式会社

ものづくりを通じてみんなが物心ともに豊かになり人々の幸福・社会の発展に貢献すること



代表取締役 西 泰宏

平成15年7月に「次世代育成支援対策推進法」が制定され、当社でも子育てする社員が仕事と子育てを両立させることができ、社員全員が働きやすい環境づくりを推進するために、平成18年7月に第1回目「一般事業主行動計画」を策定しました。平成20年1月には、「徳島県はぐくみ支援企業」として認証を受けました。平成21年8月に第2回目の「行動計画」策定し、同年10月に「くるみんマーク」を取得しました。徳島県内においては第2号、従業員300人以下の事業主としては、県内初の取得でした。

現在までに、2人の男性社員が育児休暇を取得し、出産女性社員の育児休暇取得率も100%（復帰率も100%）となっています。配偶者出産休暇も社内に周知され、取得率90%以上を達成しました。今では、社内行事に、社員の子どもが参加することがあたりまえの社風となりました。



【子どもも楽しめる忘年会】  
製造部 本社製造課 井関 美保

## 児休暇を取得して ～育MEN No.1!～

営業部 真尾 裕也



3年前に育児休暇を取得し、今では積極的に育児に参画しています。妻も働きに出るようになり、私と息子2人で留守番もできます。育児休暇を取得して、自分の両親への感謝の気持ちも感じることができました。両親からもらった愛情を倍にして、子どもに注いでいこうと思っています。

## 3人目の出産で、初めて育児休暇取得!!

製造部 技術課 武田 伸二

転職後1年経過したときに、13日間の育児休暇を取得しました。苦手だったおむつ交換もできるようになりました。子育てに奮闘する私を見て、2歳になる娘も、トイレに行くとき、私のところに来てくれるようになりました。「育児をやって良かったなあ」と実感できる毎日を過ごしています。今後パパになる方に、育児の大切さを伝えていき、育児休暇を取得する男性社員が一人でも増えるようなアクションをしていきたいです。



## 「大家族主義」の社風で、社員一人ひとりがしあわせに

社員教育の充実により、「多能化」がすすみ、このように育児休暇を取得することができました。上司の理解と同僚の協力に、2人とも感謝しているということです。

## 育児休暇中の社員はこんな感じです…

子どもを出産した女性社員は、会社に子どもを連れてきてくれます。赤ちゃんを連れてくると、みんなが声をかけに集まってきます。育児休暇中も、毎月、朝礼原稿を送付し感想文を書いています。行動計画策定後は、育児を理由に





【無事に生まれました！】 総務部 総務課 越久 裕子

した女性社員の退職者は一人もいません。1年以上休職しても復帰の際に不安を感じないので、2人目3人目も育児休暇を取得する社員もでてきました。

## パパもママも社員で、がんばっています…



【ママと一緒に忘年会】  
製造部 土成製造課  
土井 裕介（パパ）  
製造部 土成製造課  
土井 好亮（ママ）

パパから…「大家族主義」だから、私の子どもも家族の一員です。イベントに子どもを連れて参画するのが楽しみです。  
ママから…もうすぐ2人目が産まれます。育児休暇を取得して、もちろん復帰します。かえる場所があって、みんなが待っていてくれるって、すごく幸せなことです。

## 今後の取り組みについて

平成22年6月の改正育児・介護法施行前の平成21年9月に、「パパ休暇」を導入し、就業規則に規定しました。今後は、社内周知をし、配偶者出産休暇やリフレッシュ休暇のように浸透させたいと思っています。今後も、仕事と家庭の両立支援について積極的に取り組み、地域社会に貢献できる企業でありたいと思います。

次世代育成支援対策推進法第13条に基づき、徳島県内第6号として、平成23年10月24日付で、2回目の次世代認定マーク（くるみん）を取得しました。2回目の取得は、「県内初！」です。



## （第三回）一般事業主行動計画の概要

提出日 平成23年7月26日

従業員がその能力を十分に発揮することができる雇用環境の整備を行うとともに、次世代育成支援について地域に貢献する企業となるため、次のような行動計画を策定する。

- (1) 計画期間  
平成23年8月1日～平成26年7月31日までの3年間
- (2) 内容
  - 目標1 計画期間において、育児休暇取得状況を次の水準にする  
男性社員…期間内に1人以上取得すること  
女性社員…取得率90%以上を維持すること  
(対策)  
・社員のニーズ調査  
・妻が出産した社員には、育児休暇取得を促す  
・育児休暇取得者に対し、復帰後フォロー研修を実施する
  - 目標2 子どもが生まれる際の父親の配偶者出産休暇取得促進  
(対策)  
・配偶者出産休暇（2日）制度の周知を行い、対象者の取得率90%以上を目標とする  
・休暇取得期間を延長し、社員に取得を促す（出産時からお宮参り頃まで取得可能にする）
  - 目標3 年次有給休暇の取得促進  
(対策)  
・リフレッシュ休暇制度（年間2日）について、対象者100%取得を目標とし、取得状況を公開する  
・年次有給休暇の取得日数を一人あたり平均年間5日以上取得できる職場環境についての周知・啓発を行う
  - 目標4 計画期間内に、定期的に、インターンシップを実施する  
(対策)  
・大学3年生を対象としたインターンシップの定着化  
・障がい者を対象とするインターンシップの受け入れ検討
  - 目標5 地域の子どもの対象とした「ものづくり教室」を実施する  
(対策)  
・「ものづくり教室」の実施内容検討  
・計画期間内に「ものづくり教室」を実施

## 両立支援サイト



<http://www.nishi-seiko.co.jp/news/index.jisedai.html>

## 事業所概要

### 西精工 株式会社

所在地 徳島市南矢三町1丁目11-4  
事業内容 ナット・ファインパーツの製造および販売  
設立 1960年（昭和35年）8月  
資本金 3,000万円  
従業員数 246人（男性196人、女性50人）  
正規 225人（男性183人、女性42人）  
非正規 21人（男性13人、女性8人）  
TEL 088-631-7177  
FAX 088-632-7626  
URL <http://www.nishi-seiko.co.jp>

